

エゾシロヒメハマキ

6～7月にハマナスの葉や花を糸でつづって食べるイモムシ。最大長約12mm。頭は淡い黄土色。体は太く、つやのある赤茶色。頭のすぐ後の背面は暗い茶色。

【学名】 *Notocelia longispina*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道。

【形態】

ハマナスにはよく似たバラシロヒメハマキとハマナスヒメハマキが寄生し、大きさは3種とも同程度である。これら2種は尾叉（びさ、肛門の下側にある櫛歯状の刺毛）を持つが、エゾシロヒメハマキは尾叉がない。また、バラシロヒメハマキの成虫は6月中旬頃に出現するので、幼虫の食害も5月下旬前後と早いと考えられる。ハマナスヒメハマキは体の背面中央と横の下側にそれぞれ1本の黄色の不明瞭な縦線がある点で区別できる。

【生態】

宿主：ハマナス。

年1回発生。幼虫が小さなときに越冬する。成虫は8月上旬～9月上旬に出現する。幼虫は8月下旬頃孵化する。翌年の春から夏に葉や花を食べて幼虫は成長する。

以上は小清水原生花園での観察記録である（文献1983）。

【被害と防除】

1982年に小清水原生花園で多発した記録があり、花つきが著しく悪化し、観光客をがっかりさせたといわれている。このときは8月下旬にMEP乳剤による防除試験が行われている。

【文献】

*1983. 上条一昭, 駒井古実, 鈴木重孝. ハマナスを加害する害虫. 光珠内季報, 55: 17-21.

*の文献は独立地方行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場ホームページの「独立地方行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

エゾシロヒメハマキ hamaki/ezosiro/
kaisetv.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2002/2/25.

